

思いがかなって、自主事業が開催できました。

令和元年に始まったコロナ禍により、長らく開催・実施できなかった自主事業でした。ようやく願いが叶い年度またぎにはなりましたが、令和3年3月21日（日）と令和3年4月21日（日）の2日にわたり「陶芸&コケ玉講座」を彦根市荒神山自然の家にて開催することができました。

この企画は、令和元年度に企画して実施する予定でしたが、開催中止の指示を受け、そのリベンジ企画としたものでした。その間、所員が代わったり、社会情勢が刻々と移り変わっていく中で、自主事業の在り方自体を問われる時期もありました。しかしながら、自然の家らしさを保ち、自然の家の持ち味をPRしていこうという姿勢だけは失わずに日々格闘して今日に至りました。

まず、3月21日（日）は、「陶芸の日」です。当日は、あいにくの雨模様となりましたが、極端に寒くない上に施設内での活動ということもあり、ほっと一息というところです。申し込みの段階で男女13名の方が申し込みをいただき、当日は皆さん胸躍らせ10時の集合には全員お集まりいただきました。所員一同、欠席者もなく全員参加いただいたことにこの上もない喜びを感じることができました。

検温・消毒に始まり開会セレモニー後から、いよいよ自主事業がスタートしました。まずは、始めて集まった仲間ですが、ころざし、気持ちは同じなので、参加いただいている皆さんの気持ちをほぐし打ち解けられるように、所員のファシリテートによるレクリエーションを集会室にて1時間30分ほど行いました。やはり、はじめはお互いに知らない者同士でかたさがありました。自己紹介アクティビティやコミュニケーションを使うアクティビティを繰り返していく中で、どんどん緊張感もほぐれ、和気あいあいのムードで、心も身体もほぐすことができました。



その後、昼食は食堂の特別食を食べ、和気あいあいと楽しく会話も弾みながら会食となるはずだったのですが、昨今の状況から黙食という悶々とした食事を済ませました。昼食後は、いよいよ陶芸の体験となりました。今回はこの陶芸の体験活動を地元ローカルテレビのZTVが取材いただけるということで、少しカメラを意識した活動になったことはやや否めない気がしました。7分ほどのテレビ放映されました。

さて、その肝心の陶芸体験ですが、今回はコケ玉を置くためのお皿や鉢を作ります。粘土は焼くと収縮するので、作るコケ玉の大きさをある程度イメージして2cmほど大きく作ることがはじめに伝えられました。つづいて手回しろくろの中心に粘土を置き、ろくろを回しながら粘土を丸くし、土台とします。その土台の上に細長くした粘土を積み上げ形作っていきます。ここからが、それぞれオリジナルの形が出来上がっていきます。個人が作成した陶芸作品は、乾燥の後、後日所員の手により素焼き、釉薬かけ、本焼きと経過し次回につなげました。



続いて、4月18日（日）には、「コケ玉作り体験」が行われました。

まず、前回同様13名の参加者皆様がおいでいただいたことにとっても喜びを感じることができました。参加者は、出来上がった作品を見て、その美しさに感動されていたことが印象的でした。出来上がった世界に一つだけのオリジナル作品を手に取り、初めに行ったことは、120番の紙やすりで土台や裏の底を丁寧に磨くことでした。そうすることにより、作品が滑らかになり一層味が出てきました。この日も、時折晴れ間はみられるものの、途中強い雨も降り、時には風も吹く中でやや肌寒い日となりました。しかも、実施はクラフト棟という屋外での活動。暖房としてストーブを準備したものの、焼け石に水感はず、参加された皆様には少し寒い思いをさせてしまったこと申し訳なく感じています。しかしながら、講師として来ていただいた高木・技研特別共同体高木造園社員の赤井さんからうけた手ほどきをもとにして、コケ玉作りは手際よく、またとても立派に作る事ができました。



使った苔は、ハイゴケという種類で数ある苔の中でも一番作業がしやすいものだそうです。最初に植える苗の準備をします。この段階で、枯れている葉や不要な枝を切り形を整えておきます。ポットの中にある状態から取り出し、根についた土を落とし、ひと回り小さくして、椀に麻布を敷き、培養土を入れその上に苗を置き、その周りをさらに培養土で囲むようにします。麻布ごと取り出し、糸でまんべんなく縦・横・斜めに巻き全体を絞ります。その上からコケを一塊ずつ貼り付け、糸で固定して側面全体に貼り付けて完成です。



最後に飛び出しているコケをはさみで切り美しく仕上げます。その後バケツに汲んである水に浸し、焼き上げられた世界に一つだけのオリジナルの陶芸作品に乗せて出来上がりとなります。

どのコケ玉も存在感があり、とても美しくまた、風格のあるものになり、皆さんとても満足そうな面持ちでした。

このような時期ではございますが、自然の家らしさを失わずに自主事業や講座の開催を企画・計画しております。今後も所員一同誠実で心のこもった対応に尽力いたします。皆様のご参加を心よりお待ちしております。